

# 熊本地震から約2ヶ月、いま被災地では

東日本大震災が発生して5年後、4月14日の21時26分、まさかと思った場所で地震は起こりました。熊本県益城町では九州地方で初めて震度7を観測し、阪神淡路大震災と同じく断層型地震の恐ろしさを感じました。熊本日日新聞の記事によると、避難所生活ではなく在宅を選択する被災者も増えているそうです。プライバシーが気になり、全壊した建物のよこでテントの生活。「応急危険度判定」で要注意または危険と勧告されても、家屋内で生活している状況が見られるそうです。



さらに梅雨入りによって浸水などの二次被害も懸念されています。生活のために農家は農作業もしなければいけない。仮設住宅への入居が遅れば、心身の負担はさらに大きくなるでしょう。東日本大震災のときと同じ状況が、いま熊本でも起きています。私たちは東日本の被災地と同様にこれからも行動を起こしていくつもりです。

## 熊本のおじいちゃん、おばあちゃんへ

先月号の「轍」でも紹介しましたが、本校生徒の親戚の方からお手紙を頂戴しました。そのつながりを基に、東日本大震災被災地応援実行委員会では、熊本の避難所で生活している方々へ、応援のメッセージと、ハンディーサポート「きらら」作成のやわらかい編み物の草履や座布団を送りました。



5月から中学1年生が大勢委員会に参加しています。



初代副委員長：松野さんから、こども向けにぬいぐるみも提供していただきました。



避難している熊本のおじいちゃん、おばあちゃんに愛用していただけそうな手作り品です。少しでもリラックスしてほしいな。

# フクシマで何が起きているの



戦後 71 年目、アメリカ現職大統領が広島を訪問しました。「核なき世界を」アピールしたオバマ大統領の演説が話題になりました。日本は唯一の被爆国です。広島・長崎・そしてビキニの水爆実験による被害。

「恐怖の論理から逃れなければならない」と締めくくられたオバマ演説。私たちは「核の恐怖は核兵器に限らない」事を知りました。2011年は戦争ではなく自然災害によって被爆しました。水蒸気爆発と原子炉のメルトダウンによって、放射性物質が外部に飛散し、廃炉するにも見通しが確実ではありません。政府はそれでも「原発」の輸出合意、「原発」再稼働、原子力安全委員会による「新基準クリア」などを推進しています。

私たちは、福島の事故後、周辺 1 2 市町村が避難指示区域には容易に入れなくなりました。そこに長時間いることで健康へのリスクが高まる可能性があるからです。

右のグラフでも、福島県自然保護協会の採取したデータと環境省のデータではかなりの差異があります。人が住まなくなったので野生動物の頭数が急激に増えたとの報告もありますが、生態系に及ぼす放射能の影響は明らかにされていないことが多いと感じます。被災地の復興を考える時に、土地や建物の復旧だけでなく、原子力発電の安全性も真剣に考えなければいけないのではないのでしょうか

【表1】川底およびダム底の土の放射性セシウム濃度 (2012年調べ)

採取地	福島県自然保護協会調べ		環境省調べ	
	採取日 〔月日〕	セシウム濃度 〔Bq/kg〕	採取日 〔月日〕	セシウム濃度 〔Bq/kg〕
広瀬川河口	5.4	10,272	1.19	980
松川河口	2.27	5,251	1.20	280
逢瀬川河口	1.26	16,673	1.7	860
三春ダム	1.30	21,557	1.20	7,500

## 「サンマとカタール 女川とつながる人々」



「サンマとカタール」。最初はダジャレかと思った表題のドキュメンタリー映画ですが、内容は大変すばらしいものです。宮城県の女川町は津波によって町民の 1 割近くが犠牲となり、8 割近くが住まいを失いました。その壊滅的な状況をどうやって復興に導いていくか、女川町に住む若い人々の活動を記録しています。

日本は震災時、海外からも多額の寄付（義援金）を受け取りました。しかし実際のところ、どんな用途に使われたのかを知っている人は少ないです。遠い中東の国、カタールはある理由から、約 100 億円を寄付しました。女川町は昔から水産業、とくにサンマの打ち上げで有名な港町です。果たしてその寄付金の結びつきはどこにあるのか。是非皆さまにも見て知ってほしいです。

◎神戸アートビレッジセンター KAVC ホール

6/12 (日) 13:00~ 上映&LIVE

◎NHK・BS でも放送予定

詳しくはホームページを検索